ものをつくる仕事
②工場の仕事（だるま）

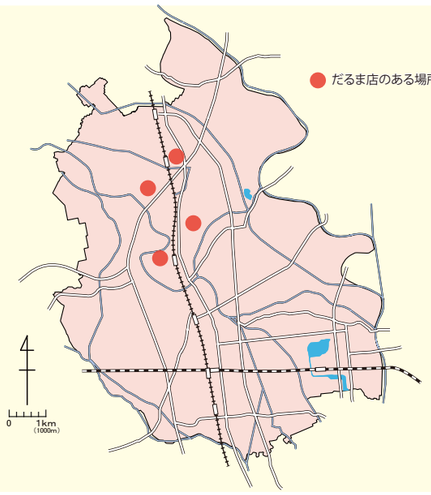
つかむ

越谷市のだるまづくりについて話し合い、学習問題をつくりましょう。

だるまづくりの仕事

越谷市では、昔からだるまがつくられてきました。今でも、越谷市の４けんの家で、だるまづくりをつづけています。また、越谷のだるま組合には、春日部市、さいたま市にあるだるま店も入っており、合わせて７けんがとうろくし、全国かく地から注文が入ります。

あきらさんのグループは、学校の近くのだるま店でだるまづくりの仕事を調べることにしました。



だるま店は、国道４号の近くに集まっているね。

「なぜ、だるまづくりをしてきたのだろう。また、どうやってだるまはつくられるのかな。」

「道具やざいりょうは何かな。できあがっただるまは、どこへ送られていくのかな。」

「昔からつたわっているだるまづくりのひみつや、だるまがづくりがさかんになったわけを調べてみたいね。」

学習問題

だるまづくりをする人たちは、どのようなくふうをしているのでしょうか。

だるま工場の見学計画

つかむ

だるま工場の見学の計画を立てましょう。

だるま工場の見学

○見てくること
- だるまのつくりかた
- 道具やざいりょう
- はたらいている人の様子

○持ち物
- デジタルカメラ
- メモ用のノート

○聞いてくること
- 原りょうはどこからくるの
- どれくらい時間をかけてできるか

○一番調べたいこと
- 越谷のだるまのとくちょう

P35 の見学カードをいかして見学カードをつくりましょう。

越谷だるま

あきらさんのグループでは、デジタルカメラを持って行き、仕事の様子をうつしたり、しょく人の方にインタビューしたりすることにしました。

だるまができるまで

あきらさんたちが調べてみると、だるまをつくるための主な道具とざいりょうには、いろいろな物がありました。

道具……①色をぬるためのスプレー　②筆
ざいりょう…①だるまのもとになる生地
②ごふんとにかわ
③墨やペンキ

ごふんは、カキの貝がらを粉にしたものだよ。

「だるまには、どんな色が使われていたかな。筆では、どの部分をかくのだろう。」

「いろいろなざいりょうがあるけれど、だるまづくりはどんなことがむずかしいのかな。」

知りたいことをだるましょく人の方にうかがうことにしました。

調べる

だるまはどのようにしてつくられているのでしょうか。

見学してわかったことをノートにまとめてみましょう。

だるまづくりのながれと だるまづくりのくふう

① そこをつける

② ごふんをぬる

③ 赤くぬる

④ かんそうさせる

⑤ 顔をぬる

⑥ 目のまわりに色をぬる

⑦ まゆげ・ひげをかく

⑧ 金でもようを入れる

・・・かんせい・・・

（工場によって、顔がちがう）

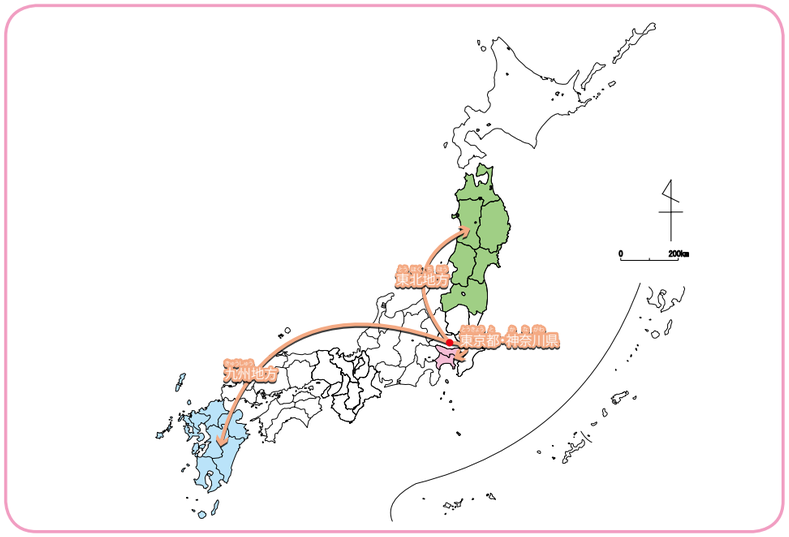
⑨ 出荷されるだるま

だるましょく人の方の話

わたしがだるまをつくるしょく人になって40年くらいになります。昔は、農家の冬の仕事として行われていました。だるまの形は、木型に和紙をはってつくっていましたが、今では、工場でつくられただるまの形のものを使うことが多くなっています。そのため、いろいろな大きさのだるまをたくさんつくることができるようになりました。

越谷だるまは、色が白く、はなが少し高く、やさしい顔立ちがとくちょうです。まゆはかめ、ひげはつるを表していて、お店ごとに顔がちがいます。まゆやひげをかく筆は、だるまの大きさにかかわらず同じ筆でかきます。小さなだるまはかわいらしく、大きなだるまは力強く、バランスを見ながらかいています。子どものころからだるまづくりの手つだいをしていますが、顔がかけるようになるのは大人になってからです。まゆやひげをかく作業はだるまづくりの中でも大切な作業なので今でも緊張しますが、だるましょく人としてのうでの見せどころですね。

できあがっただるまのゆくえ



かんせいしただるまは、越谷のお店だけでなく、東京都の浅草寺や神奈川県にある川崎大師など埼玉県いがいのお寺などでも売られています。また、注文があれば、東北や九州などさまざまな地いきへも送られます。

調べる

かんせいしただるまは、どこに送られるのでしょうか。

まとめる・いかす

学習問題について、話し合いましょう。

お店にならぶだるま

まとめる・いかす

越谷だるまを広めていくには、どうしていったらよいでしょうか。

越谷だるまのれきしとこれから

だるまのはじまり

だるまは、もともと子どもの病気やでんせん病のまよけのおまじないでしたが、しだいに商売はんじょう、開運、合かくきがんなどえんぎがよいものとして人気を集めてきました。

だるまのたん生

江戸時代の中期（285 年ほど前）
一説には 1713 年ごろ（310 年ほど前）

農家の冬の仕事として始まりました。江戸で使われた和紙を使い、つくっていました。

色白ではなが高くやさしい顔がとくちょうです。

昔からつくられてきた越谷だるま

五色だるまのたん生

江戸時代の幕末から明治期
（155 年から 110 年ほど前）

色によって、それぞれのねがいがこめられています。

だるまの５色（子どもからおとしよりまでを表している）

緑	けんこう
黄色	金うんを上げる
赤	やくをよける
白	福をまねく
むらさき	長じゅ

埼玉県から伝統工芸品に指定

昭和 59 年（40 年ほど前）

だるまアートのたん生 今

昔からつくられてきたれきしある越谷だるまですが、よりたくさんの人にきょうどの伝統工芸や文化にきょうみを持ってもらえるよう、アイデアを出し合っています。

越谷レイクタウンで開かれた、越谷だるまアート展

だるまアートをつくった人の話

だるまアートは、越谷市のだるま職人さんたちと協力をしてつくっています。たくさんの人にだるまアートを知ってもらうために、レイクタウンなどで展示を行うこともあります。だるまアートを通じて、越谷の歴史や伝統を知るきっかけになればうれしいです。

～ポスターでまとめたれい～

土づくりのひみつ

畑の土は、ねん土にさらさらの土をまぜてつくります。それからしょうどくをしたり、土を中せいにしたりします。たねをまく前に、トラクターで土をおこします。空気をたっぷりふくませて、小さな生き物がすめるようにします。ネギづくりにぴったりの土地です。

ネギ君のすみか

ネギ君のすみかをしょうかいします。ネギ君は、水に弱いのです。農家の方は、どうろよりも高いところにすみかをつくってあげます。板でへいをして、土がくずれ落ちないようにしてあげるのです。ネギ君は、水はけのよい畑がすきなのです。

トラクターのかつやく

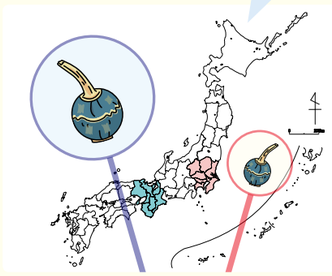
まちにまった取り入れです。トラクターがかつやくします。ネギ君にきずをつけないよう、また、取り入れの作業がしやすいように根っこの下から土をほりおこします。このあと、手作業でていねいに取り入れます。

～紙人形げきでまとめたれい～

くわいのゆくえ

くわいは、しゅうかくされてから、きかいを使って大きいくわいや小さいくわいというように大きさごとに分けられます。

大きいくわいは、東京都など関東地方へ、小さいくわいは関西地方へ運ばれていき、食べられています。



できあがっただるま

だるまは、しょく人さんによってつくられて、目いがいの部分の顔がかかれて、できあがったら、箱につめられます。

箱につめられただるまは、日本全国に運ばれていきます。東京都や神奈川県などの神社やお寺の近くで売られることが多いです。

～おせんべいのはじまり～

今から300年ほど前、越谷の農家では、家でやき米をつくって食べていました。これが「越谷せんべい」のはじまりといわれています。その後、茶店で売られるようになりました。しつのよい越谷米と野田のしょう油を使って、パリッとやきあげられた手やきせんべいは、江戸から日光につながる「かい道」での名物となりました。

学習問題

だるまづくりをする人たちは、どのようなくふうをしているのでしょうか。